J. Jpn. Bot. **91**: 105–106 (2016)

鈴木まほろ[a,b,*]，大上幹彦[b]，金田宜昭[b]，武田眞一[b]，浜津ミサノ[b]：東北地方におけるイネ科フォーリーガヤの初記録

[a]岩手県立博物館
[b]岩手県植物誌調査会（事務局：岩手県立博物館内）

Mahoro SUZUKI[a,b,*], Mikihiko ÔUE[b], Yoshiaki KANEDA[b], Shin-ichi TAKEDA[b], Misano HAMATSU[b]: The First Record of *Schizachne purpurascens* subsp. *callosa* for Tohoku Region, Japan

[a]Iwate Prefectural Museum, 34, Ueda-Matsuyashiki, Morioka, Iwate, 020-0102 JAPAN;
[b]The Society for Research on Flora of Iwate
*Corresponding author: suzukim@iwapmus.jp

Summary: *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.) T. Koyama & Kawano (*Poaceae*) is recorded from Mt. Takamine, Ohkawa Iwaizumi-cho, Iwate Prefecture, Japan. The perennial grass grew in the deciduous forest on a boulder slope located at an altitude of 1060 meters. All the past specimens of this species were collected only from Hokkaido and Central Honshu, and this is the first record for Tohoku region.

これまで東北地方からは記録のなかったフォーリーガヤ *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.) T. Koyama & Kawano を，岩手県下閉伊郡岩泉町から見出したので報告する．

フォーリーガヤは，日本では北海道と本州中部に生育するとされるイネ科の多年草である（Honda 1930，大井 1941，1982，1983）．東京大学総合研究博物館 (TI) と東北大学 (TUS) の標本室を調査したところ，収蔵されているフォーリーガヤの標本は北海道と長野県産のみであった．また，国立科学博物館が運営するサイエンスミュージアムネットの自然史標本情報検索（http://www.science-net.kahaku.go.jp/specimen/collection/ 2015 年 9 月 7 日確認）でフォーリーガヤを検索したところ，北海道大学総合博物館 (SAPS) と神奈川県立生命の星・地球博物館 (KPM)，国立科学博物館 (TNS) に標本が収蔵されており，全て北海道か長野県産のものであることが分かった．

長田 (1989) は，日本列島における本種の分布を「北海道，本州中部以北」としている．長田 (1989) のフォーリーガヤのスケッチには「長野県上伊那郡長谷村 VIII. 4，山梨県八ヶ岳編笠岳 V. 31」とあるが，これらの標本の所蔵先は判明していない．他に，文献記録として伊藤 (1958) の「秩父多摩国立公園高等植物目録 (2) 」にはフォーリーガヤが含まれるが，生育する区域は秩父側でなく「多摩および甲信側の山地帯上部」となっている．また杉本 (1973) に，フォーリーガヤの本州の分布は「八ヶ岳，上高地，秩父」とあるが，『埼玉県植物誌』（伊藤編 1998）にはフォーリーガヤは掲載されていない．すなわち，これまで本州において中部地方以外からのフォーリーガヤの標本記録は見つかっておらず，なぜ長田が「以北」としたかは不明である．

筆者らは 2015 年 5 月 30 日に岩手県下閉伊郡岩泉町大川の高峰にある兜森国有林で植物相調査を行い，この時に採集した標本を同年 6 月 13 日に同定したところ，中にフォーリーガヤが含まれているのを発見した．そこで同年 7 月 3 日に調査地を再訪し，同種が生育しているのを再確認した．

生育地は標高 1060 m にあり，高峰の斜面を横切るようにつけられた林道沿いである．林道の上は花崗岩からなる岩塊斜面となっている．大きさが 1–3 m ほどの岩塊が積み重なった隙間に薄い土壌が乗っており，フォーリーガヤはこの岩塊の隙間に生育していた．過去には，日本におけるフ

ォーリーガヤの生育地は亜高山帯針葉樹林とされてきたが（大井 1941，1983，長田 1989），浅沼 (2009) は知床半島において，岩壁から崩れた岩屑が溜まる斜面上に成立したダケカンバ林の林床で本種を発見したことを報告している．今回発見した場所も，岩塊斜面上に成立した落葉広葉樹林の下であった．高木層の主要な構成種はウダイカンバ，亜高木層はダケカンバ，オガラバナ，ミヤマザクラ，アオダモ，低木層はノリウツギ，キタカミヒョウタンボク，ミヤママタタビなどであった．

本種は，短く細い葉と少数の小穂をつける目立たない草本であり，長い芒を有する点などは一見トボシガラ *Festuca parvigluma* Steud. などと誤認されやすいため，東北地方には他にも見逃されている生育地がある可能性が高いと考える．本報告の証拠標本は KPM，TUS および岩手県立博物館に収めた．

本報告に当たり，標本の同定を確認して下さった神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏，標本調査に御協力下さった東京大学総合研究博物館及び東北大学標本室のスタッフの皆様に感謝を申し上げる．

要　旨

これまで東北地方からは記録のなかったフォーリーガヤ *Schizachne purpurascens* (Torr.) Swallen subsp. *callosa* (Turcz. ex Griseb.) T. Koyama & Kawano を，岩手県下閉伊郡岩泉町大川にある高峰の標高 1060 m，岩塊斜面の落葉樹林下から見出した．本種の標本記録はこれまで北海道と中部地方に限られていた．

引用文献

浅沼孝夫 2009. 知床半島新産の絶滅危惧植物フォーリーガヤ（イネ科）．知床博物館研究報告 **30**: 95–96.

Honda M. 1930. Monographia poacearum Japonicarum, Bambusoideis exclusis. Imperial University of Tokyo, Tokyo.

伊藤　洋 1958. 秩父多摩国立公園高等植物目録 (2)．秩父自然科学博物館研究報告 (8): 81–115.

伊藤　洋（編）1998. 埼玉県植物誌．埼玉県教育委員会，さいたま市.

大井次三郎 1941. 日本の禾本科植物第一．植物分類，地理 **10**(2): 94–135.

大井次三郎 1982. イネ科．佐竹義輔，大井次三郎，北村四郎，亘理俊次，冨成忠夫（編），日本の野生植物　草本　I 単子葉類．平凡社，東京.

大井次三郎 1983. 新日本植物誌顕花篇．至文堂，東京.

長田武正 1989. 日本イネ科植物図譜．平凡社，東京.

杉本順一 1973. 日本草本植物総検索誌 II　単子葉編．井上書店，東京.